

国語

〔解説〕

- ① 「批評」は、評価すること。
- ② 「寸法」は、基準となる長さのこと。
- ③ 「負担」は、責任や仕事などを引き受けること。
- ④ 「登庁」は、役人などが官庁や役所に出勤すること。
- ⑤ 「縮尺」は、実際よりも縮めて書くこと。
- ⑥ 「家屋」は、人が住むための建物。
- ⑦ 「干潮」は、海の潮が引いて、海水面が最も低くなること。
- ⑧ 「秒針」は、時計で秒を示す針。
- ⑨ 「蚕」は、絹糸をとるために飼育される虫。
- ⑩ 「誤差」は、数値の小さな差や食い違いのこと。
- ⑪ 「臨海」は、海の近くにあるということ。
- ⑫ 「門戸を開く」は、制限などをせず、出入りを自由にすること。
- ⑬ 「簡易」は、簡単という意味。
- ⑭ 「内訳」は、項目別に示した内容のこと。
- ⑮ 「創造」は、新しいものを作り出すこと。
- ⑯ 「操縦」は、あやつること。
- ⑰ 「一派」は、一つの流派のこと。
- ⑱ 「支柱」は、支えとなる重要な存在のこと。
- ⑲ 「除雪」は、雪をとりのぞくこと。
- ⑳ 「補助」は、おぎないたすけること。
- ㉑ ① 「沿岸」は、海や川、湖などに沿っている部分。
- ② 「温泉」は、地熱で温められた地下水。
- ③ 「演奏」は、音楽をかなでること。
- ④ 「砂糖」は、甘味のある調味料。
- ⑤ 「単純」は、複雑ではないこと。
- ⑥ 「閉幕」は、幕を閉じて終わること。

- ⑦ 「背筋」は、背中の中心を上から下に通る部分。
 - ⑧ 「保存」は、そのままの状態を保つこと。
 - ⑨ 「看護師」は、診察や看護の補助をする専門の人のこと。
 - ⑩ 「平均点」は、すべての数値の中間的な点のこと。
 - ⑪ 「株式会社」は、現代の一般的な企業形態のひとつ。
 - ⑫ 「規模」は、物事の大きさのこと。
 - ⑬ 「散乱」は、ちらばること。
 - ⑭ 「雑誌」は、刊行物のひとつの種類。
 - ⑮ 「所蔵」は、所有してしまっておくこと。
 - ⑯ 「姿」は、ここでは人やものそのもののこと。
 - ⑰ 「汽笛」は、蒸気を出すことで鳴らす笛。
 - ⑱ 「窓辺」は、窓の近くのこと。
 - ⑲ 「反射」は、はねかえること。
 - ⑳ 「困難」は、するのが難しいということ。
 - ㉑ ③ ① 最初に「羊」の部分を書く。
- 問一 ① 最初に「羊」の部分を書く。
- ② 九画面にあたる縦棒と順番を間違えないようにすること。
- 問二 ① 「卜」は三画で書く。
- ② 「糸」の一画面と二画面をつなげて書かないように気をつける。
- ③ 「斤」は四画で書く。
- 問三 ① 「無我夢中」とは、何かに心をうばわれて、我を忘れてしまうほどのこと。
- ② 「電光石火」とは、非常に短い時間や、動きがすばやいことのとたとえ。
- ③ 「一刀両断」とは、一振りですべて二つに断ち切るから、すばやく決断して処理するという意味。
- 問四 ① 「赤い」のは何かを考える。
- ② 「字を」「書く」とつなげて意味がおかしくないので、「書く」を修飾しているとわかる。
- ③ 「急に」どうなったのかを考える。
- 問五 ① 「足を引っ張る」とは、人の成功や前進をじゃますること。
- ② 「首を長くする」とは、期待して待ちこがれること。

③ 「舌を巻く」とは、おどろき感心すること。

問六 ① 「食べる」は相手の行動なので、尊敬語を使う。「食べる」の尊敬語は「めしあがる」。

② 「見た」は自分の行動なので、謙譲語を使う。「見る」の謙譲語は「拝見する」。

③ 「来る」はお客様の行動なので、尊敬語を使う。「来る」の尊敬語は「いらっしやる」。

④ 問一 筆者は、正しく答えた学生に対して「結構です」と言っていた。後にもあるように『大変よい』『すばらしい』の意味』で言っていたのだが、学生は『結構です』は冷たい感じがします』と意見を述べた。前で述べた**筆者の言動の意図するところは異なる反応が後に書かれているので、逆接の接続語である「ところが」が当てはまる。**

問二 続く段落に、「彼ら自身（＝学生＝若い人）」の「結構です」の使い方が説明されている。話し合いが決裂したときやしつこいセールスを断るときなどに、「強い拒絶を表すとき」に「結構です」を使うのだ。

問三 自分が正しいと思っていた言語感覚に対し、異なる世代から受ける指摘が「世代間ギャップのサイン」なのだから、本文中で話題になっている「世代間ギャップ」とは、最後の段落に書かれている「**世代が違えば、ことばの受け取り方も変わるといふこと**」である。

問四 「かろうじて」は、どうにか、なんとかしてという意味。

問五 「結構です」といふことばを、筆者は「大変よい」「すばらしい」という意味で使っていたが、学生は「結構です」といふことばは「冷たい感じ」がする」と指摘した。筆者はこの経験をを通して、「**世代が違えば、ことばの受け取り方も変わるといふこと**を、**いつも注意しておくことが必要**」だと伝えているのだ。